

# 急病時の子どもが医療機関を直ちに受診すべきか否かの判断を支援する 携帯電話サイトの公開

岩澤まり子(図書館情報メディア系・教授)  
須磨崎亮(医学医療系・教授)

## 1. 概要

近年、小児救急診療の切迫が大きな社会問題になっている。その主要な原因は、時間外診療における軽症小児患者の急増である。

このため、図書館情報メディア系と医学医療系(小児科)は共同研究を行ない、子どもの急病の際に使用する受診判断支援システムを携帯電話サイトとして実験公開した。トップページを図1に示す。公開実験の結果、本携帯電話サイトの有用性と可能性が高く評価されたため、本申請により、本携帯電話サイトの公開を継続した。

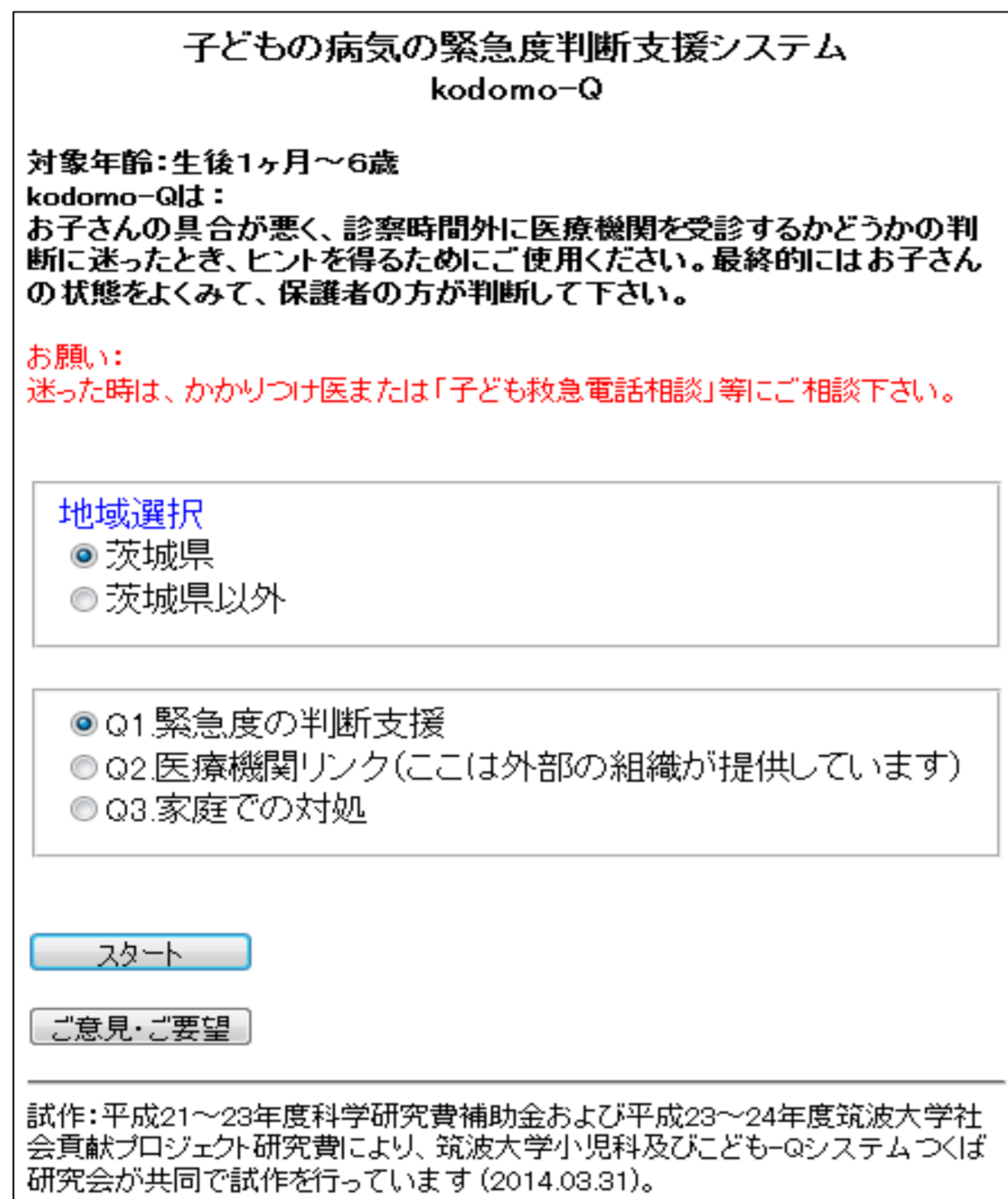


図1. トップページ

(<http://kodomo-q.slis.tsukuba.ac.jp/>)



図2. 家庭での対処スタートページ

図2. 「熱を出したとき」ページ

## 2. 実施内容及び成果

Q1の緊急度の判断支援を利用することにより、子どもの病状を適切に把握し、救急受診の必要性を家庭で判断できるようになる。利用者は急いでいることが多いため回答者数は少ない(n=25)が、サイトの評価についての回答を集計した結果を、表1に示す。

表1. 利用者による評価

質問内容	人数	質問内容	人数
参考に行動した	9	使いやすい	5
役にたつ	11	使いにくい	2
役にたたない	1	見やすい	2
また使いたい	13	見にくい	0
もう使わない	0		

「参考に行動した」「役にたつ」「また使いたい」との評価が多く認められた。また「使いにくい」との意見も認められたため、さらなる改善を目指したい。

緊急度の判断支援を補完するために、Q3の家庭での対処ページを実験公開した。スタートページを図2に、「熱を出したとき」のページを図3に示す。

家庭での対処スタートページから症状を選択することにより、食事や水分補給、入浴、解熱や保温等についての情報を得ることができる。本ページは、つくば市保健所の乳幼児健診担当者に協力頂き、作成した。

本携帯電話サイトについて、MEDINFO2013(国際医療情報会議)にて発表を行なった(2013年8月)。

## 3. 今後の展望

筑波メディカルセンター病院小児科の受診者を対象として本サイトの紹介を続け、利用者の増大を図るとともに、本サイトの視認性を高める方法についても検討する。

本携帯電話サイトにアクセスすることにより、子どもの病状を適切に把握し、救急受診の必要性を家庭で判断できる。すなわち、相談相手のいない孤立した子育て中の家族の不安が解消し、救急外来への軽症な小児患者の集中が緩和されて、小児科医の激務が解消されることになり、社会問題化している小児救急医療体制の問題を情報通信技術によって解決できると期待できる。救急受診のに関するアドバイスが得られれば、軽症患者の時間外受診が抑制され、小児救急医療の窮状は一変する可能性があり、筑波大学発の社会貢献として大きな反響が期待できる。

